

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
手話 Sign Language		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	なし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大高 仁子	非常勤講師室	出講日		授業中に指示します
授業の概要				
聴覚障害者のコミュニケーション手段にはいくつかあるが、特にろう者と言われるいわゆる高度難聴の人たちにとって、手話はもっとも大切なコミュニケーションの方法である。この授業では日本語(音声言語)と日本手話(手話語)との違いを認識し、聴覚障害者(特にろう者)の用いる真の手話を学ぼうとするものである。				
授業の目標				
①手話の基本的な語彙を習得し、指文字・数字もあわせて覚えられるようにする。 ②手話の基本単語と基本的な例文を習得できるようにする。 ③NPO手話技能検定5級程度の力がつくようにする。				
授業の方法				
手で表す言葉であるから実際に自分で手を動かすことを基本とする。テキストの単語・練習文などイラストを参考にし、教師の手話をよく見、それを実際に自分で表現して覚える。見ているだけでなく、必ず自分の手で表現することによって記憶を確実にする。また、相手の手話を読み取ることができるように演習する。				
学習の成果(学習成果)				
①「手話は言語である」ことを知り、その表現の豊かさに触れることができる。 ②聴覚障害者(ろう者)との簡単な日常会話をすることができる。 ③NPO手話技能検定5級程度の力を習得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 手話演習 指文字学習(1) 1章 導入と指文字50音・名前を指文字で表す			
第2回目	手話演習(2) 1章 指文字復習と練習1課～12課			
第3回目	手話演習(3) 1章 指文字復習と練習13課～18課			
第4回目	手話演習 基本単語(あいさつ・天候・疑問) 2章 1課～3課			
第5回目	手話演習 基本単語(手話数字・1週間の曜日) 2章 4課～5課			
第6回目	手話演習 基本単語(日・週・年・人・家族) 2章 6課～8課			

第7回目	手話演習 基本単語(色・方向・感情・動作) 2章 9課～12課	
第8回目	手話読み取り実力テスト(1章～2章)	
第9回目	手話演習 基本単語と例文(疑問と時間) 3章1課	
第10回目	手話演習 基本単語と例文(自然・家族・仕事・趣味) 3章2課	
第11回目	手話演習 基本単語と例文(程度・基本動詞) 3章3課～4課	
第12回目	手話演習 基本単語と例文(形容詞・いろいろな質疑応答) 3章5課～6課	
第13回目	手話演習 基本単語と例文(いろいろな話題提供)	
第14回目	手話読み取り 試験	
第15回目	手話演習 手話表現(自己紹介など)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	積極的に手を動かしているか。相手の手話を注意して見ているか。
レポート		
調査報告書		
小テスト	20%	テキストの内容を十分に理解している。
試験	60%	テキストの内容を十分に理解している。(手話技能検定の過去問題に取り組む)
発表内容(態度含む)	10%	習った手話を使って、自己紹介等の手話表現ができる。また、その内容が十分に通じている。
その他		
教科書と参考図書		
手話技能検定公式テキスト5・6・7級(NPO手話技能検定協会著)		
履修上の留意点・ルール		
積極的に自らの手を動かし、相手の手話を注意して見るように努める。聴覚障害者と会話することは技術の向上に大変望ましい。		